

# [図書館] 経営計画書（総括表）

## ■事務事業の総括

No.	事務事業名	様式 区分	H29 度計画額（単位：千円）		H29 年度必要人工	
			計画額	内特定財源	職 員	臨時職員
1	図書館事業	B	32,507	54	3	6.4
合 計			32,030	54	2	6.4

## ■特記事項

# 事業別経営計画書【B】

## ■基礎情報

所属名	図書館	No.	01
事業名	図書館運営事業		
総合計画の体系	基本目標	4	人の知恵・技・情報が活きる元気コミュニティを創造する
	基本施策	(1)	生涯学習の推進
目的	<p>誰もが生涯にわたって、心豊かな充実した人生が送れるように、利用者のニーズに合った資料・情報の収集、提供に努めると共に、新たな本との出会いの場を創出し、図書館サービスの向上を図る。</p> <p>小さな時から身近に本に触れ、本に親しむ習慣を育み、読書活動の推進に努める。郷土資料を“文化財”として守り、後世に伝える。</p>		
事務内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 予算・決算及び経理に関すること</li> <li>・ 図書館の調査及び統計に関すること</li> <li>・ 図書館の広報に関すること</li> <li>・ 図書館年報の作成</li> <li>・ 図書資料の貸出・返却に関すること</li> <li>・ レファレンス(参考調査)に関すること</li> <li>・ 図書館資料の選書に関すること</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 郷土資料の収集・保存等に関すること</li> <li>・ 読書活動の推進に関すること</li> <li>・ おはなし会・上映会等のイベント開催に関すること</li> <li>・ 図書館資料の分類・整理及び目録作成・保管に関すること</li> <li>・ その他必要な業務</li> </ul>		
現在における経過又は課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 社会全体として本離れの傾向にあるが、大口町の図書館利用者数も平成 21 年度をピーク (53,949 人) として、その後は減少傾向にあったが、おはなし会や出張読み聞かせ会の実施、ふれあいまつりへの参加、子育て支援団体との連携などの新たな取り組みが功を奏し、平成 27 年度下半期には増加に転じ、その傾向は平成 28 年度も継続している。</li> <li>・ 近年の図書館は、「貸出し中心」から「滞在型」に移行する傾向にあるが、開館から 39 年が経過し、施設の面積に限界があるため、蔵書数の拡充・閲覧席の増設・視聴覚資料閲覧用の機器設置など、多様化・高度化する住民ニーズに応えることが難しい。</li> <li>・ 現在の図書館は中央公民館の 3 階にあり、エレベーターや通路の狭さ、高い書架など、障がい者や乳幼児・高齢者には利用しにくい施設となっている。</li> <li>・ 13 歳～29 歳の利用 (平成 27 年度 8.3%) が他の年齢層と比べて非常に低い。</li> <li>・ 大口町も高齢化率が 20% を超える状況であるが、60 歳以上の利用率 (平成 27 年度 24.4%) が年々高くなっており、高齢者のニーズを的確に把握し、対応する必要がある。</li> <li>・ 図書館ボランティアの育成や町内の子育て支援団体との連携が十分ではない。</li> <li>・ 松江市との姉妹都市提携により大口町の歴史に対する関心が高まっている。郷土資料は、その保存を目的として収集されているが、郷土を知り、愛着と誇りを持つために、郷土資料を広く住民に提供することが求められている</li> </ul>		
平成 29 年度の目標又は改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 現在の図書館では面積に限界があるため、住民や利用者の声を反映させながら、多様化・高度化する住民ニーズに応えるため、「人が集まる空間づくり」の検討を推進する。</li> <li>・ 図書館の利用促進を図るため、ご意見箱の設置など積極的に情報収集を行い、利用者ニーズに合った選書に努めるとともに、新たに開始した図書館通帳や雑誌スポンサー制度を推進する。</li> </ul>		

<p>平成 29 年度 の目標又は 改善策</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 図書館通信やホームページ、広報、メールの発信、公共施設へのポスター掲示、チラシ配布など、幅広い伝達ツールを利用して、積極的に情報発信に努める。</li> <li>・ おはなし会や上映会等を定期的を開催して、子ども達に図書館の楽しさや本のおもしろさを伝える。</li> <li>・ 特設コーナーでは、その時期話題になった出来事や注目されている作家さん、テレビや映画の原作本などの特集を行い、図書館から利用者の方へ新しい本との出会いの場を積極的に提供する。</li> <li>・ 平成 28 年度に開催した「移動プラネタリウム」に加えて、本年度から「人形劇」を開催して、より多くの方に図書館に関心を持ってもらえるようにする。また、イベント開催に合わせて特設コーナーで関連本の企画展示・貸出を行う。</li> <li>・ 保健センターの 1 歳 6 か月健診や各児童センターでの「出張読み聞かせ」を継続して、子どもには小さいうちから本に興味を持ってもらえるように、保護者には読み聞かせによる子どもとのふれあい等の大切さを伝える。</li> <li>・ 学校司書連絡会に参加し、図書館と学校との連携を図る。</li> <li>・ 平成 27 年度から始めた「おはなしサポーター養成講座」の対象を家庭にシフトして、親子で参加する読み聞かせの講習会を、各児童センターで実施する。</li> <li>・ 憩いの四季と共同開催の「憩いの四季・図書館まつり」を継続し、今まで図書館を利用したことのない新たな利用者の開拓に努める。</li> <li>・ 成人や高齢者向けの読み聞かせ会やブックトークの実施を検討する。</li> <li>・ 過去から現在まで幅広い郷土資料を積極的に収集して、歴史民俗資料館とも連携しながら積極的に住民に対して資料提供に努める。</li> </ul>
-----------------------------------	---

## ■作業工程（当該年度）

月	作 業 内 容
4	◆「子どもの読書週間おはなし会」 4月22日(土) 参加者 43名 子どもの読書週間 4月23日～5月12日
5	○「図書館本のリユース」 5月27日(土) 参加者 201名 冊数 2,451冊
6	△「夏の子ども映画会」図書館所有のDVDの上映 6月24日(土) 1回目 10時30分～ 参加者 74名・2回目 13時30分～ 参加者 55名 課題図書の出し出し開始
	○「夏のおはなし会」(子どもと文化の森) 7月22日(土) 参加者 44名
7	◇「夏休みおはなし会」(ぐるんぱ) 8月5日(土) 参加者 58名
8	○「がんばれ！子ども一日司書さん」対象小学校5・6年 (定員6名 X2回×2日) 8月20日(日)・8月27日(日) 参加者 17名 図書館特別休館 9月4日(月)～9月12日(火)
9	○「キラメクおおぐちの夜空プラネタリウムやってきた！」(定員40名 X4回) 9月16日(土) 参加者 144名
10	○さくら大学での「大人の朗読会」10月6日(金) 参加者 43名 ◆「読書週間おはなし会」 10月21日(土) 参加者 52名 読書週間 10月27日～11月9日
	●第1回 図書館協議会開催 10月24日(火)
11	○ふれあいまつり図書館参加(絵本等の展示・ペーパークラフト) 11月5日(日) ペーパークラフト参加者 237名
12	●第2回 図書館協議会開催(先進地 浜松市立都田図書館視察) 12月12日(水) ◇「クリスマスおはなし会」(おはなしメリーゴーランド) 12月16日(土)参加者 55名
1	△「冬の子ども映画会」図書館所有のDVDの上映 1月20日(土) 参加者 67名
	○「親子で絵本を楽しもう！」北児童センター 2月17日(土) 参加者 13組 34名
2	◎「憩いの四季・図書館まつり」仕掛け絵本の展示・本の中のパンが本物に！・クジ引き 2月3日(土)・4日(日) 来館者 1,237名 パネルシアターおおきなスイミーと！(名経大いろは) 参加者 102名
3	○「親子で絵本を楽しもう！」南児童センター 3月3日(土) 参加者 11組 31名 ○「親子で絵本を楽しもう！」西児童センター 3月17日(土) 参加者 11組 29名 ●第3回 図書館協議会開催 3月22日(水) ◇「春だよ！おはなし会」(ボランティア) 3月24日(土) 参加者 34名
毎週	図書館資料の選書(各誌ランキング・書評・リクエスト等から) 図書の開架・書庫への移動・除籍の検討 児童センターへ訪問してのおはなし会の実施(北・西・南に月1回づつ訪問)
毎月	月報の作成 1歳6か月健診での読み聞かせ みんな集まれおはなし会 月2回開催 第2木曜日の職員全体会での情報共有と職務内容等の検討 館内チラシ「図書館通信」の作成 広報おおぐち「図書館だより」作成 雑誌のリユース
その他	年報の作成 郷土資料の整理収集 ホームページで行事等の紹介 図書館内での特設コーナー(2週間～1月) 中央公民館玄関での特設コーナー(1月～2月)

### □3 年間の目標

目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者の増加</li> <li>・「人が集まる空間づくり」の推進</li> </ul>					
項目(単位)	H27 計画	H27 実績	H28 計画	H29 目標	H30 目標	H31 目標
図書館利用者	43,000 人	42,560 人	44,000 人	45,000 人	46,000 人	47,000 人
読み聞かせ会等参加者	1,200 人	2,450 人	2,500 人	2,550 人	2,600 人	2,650 人

### □2 年後、3 年後の主な計画

年度	計画内容及び改善策等
H29 年度	・人が集まる空間づくり検討会 詳細案の提示
H30 年度	・人が集まる空間 基本設計・詳細設計
H31 年度	・人が集まる空間 建設または改築

### ■事業コスト

		単位	H27 年度決算額	H28 年度当初予算額	H29 年度計画額
事業費		千円	29,840	31,765	32,507
(内特定財源)		千円	15	33	54
人工	職員	人工	2.0	2.0	2.9
	臨時職員	人工	6.4	6.4	6.4
	計	人工	8.4	8.4	6.3

### ■平成 29 年度計画特定財源内訳

(単位：千円)

特定財源名称	金額	備考(充当先等)
書籍忘失等代金	18	需要費
雑誌サポーター料	36	需要費
合計	54	

## ■平成 29 年度計画額の主な増減

(新たな取組、臨時経費、廃止項目等)

(単位：千円)

項目（科目等）	計画額	増減額	内容
13-15-1 子どもの読書推進 委託料	127	65	子どもに本に興味を示してもらうきっかけ作りとして新たに人形劇を開催

## ■特記事項

平成 28 年度から人が集まる空間づくり検討委員会開始。平成 29 年度も人が集まる空間づくりの検討を継続する。

事務局については、地域振興課と協働して実施する。

## ■ 目標又は改善策に対する取組内容

図書館の基本となる選書については、様々な媒体の本の売り上げ等や実際に本屋に出向いて本の陳列状況等の情報を収集して、蔵書数9万冊の小規模な図書館が利用者いかにして満足してもらえるかという課題にチャレンジし、解決に努めた。

図書館からの情報発信を目的として、独自で作成している「図書館通信」は、図書館・温水プール・健康文化センター・役場に設置し、ホームページにも掲載して情報発信に努めた。

また、館内2ヶ所に特集コーナーを設けて、話題になった出来事や注目されている作家さん、テレビや映画の原作本などの本の特集を行い、図書館から利用者の方へ新しい本との出会いの場を提供した。

ボランティア団体によるおはなし会の開催回数を増やして、各団体による特色あるおはなし会を開催することにより、より子ども達に本の持つ楽しさやおもしろさを知ってもらえるように努めた。

また、「移動プラネタリウム」については、昨年までの3回の上映から4回に増やして、プラネタリウムをより多くの方に体感してもらえるようにし、館内では「星・神話」の特集コーナーを開設し、移動プラネタリウムのPRと新たな図書館利用者の開拓に努めた。

名古屋経済大学との交流を復活させ、「憩いの四季・図書館まつり」で学生による絵本を基にした劇の上演を行った。また、まちネット・福祉こども課・まちづくり推進室に名古屋経済大学の職員を引き合わせ、今後の連携のきっかけ作りに努めた。

保健センター・児童センターでの「出張読み聞かせ」を本年度も継続して実施し、小さなうちから本に接して、本に興味を持ってもらえるきっかけ作りに努め、保護者の方には、子どもが読み聞かせを楽しむ姿を見てもらい、読み聞かせの重要性を実感してもらう機会とした。

これまで実施してきた「おはなしサポーター養成講座」の形を変え、児童センターと共同で親子で絵本を実際に楽しむことが出来る「親子で絵本を楽しもう！」を各児童センターで実施した。また、過去2回のサポーター養成講座の受講生によるおはなし会も開催した。

本年度も憩いの四季と共同で、これまでより多くの団体等に参加してもらい、「憩いの四季・図書館まつり」を実施した。

庁舎内にも計画等を寄贈してもらえるように依頼し、図書館に寄贈すれば計画等はきちんと保管されるということを各課に分かってもらえるように努め、郷土資料の積極的な収集に努めた。

## ■ 評価

事業成果の指標の一つである利用者数は、平成28年度43,455人から、平成29年度43,638人となり、183人増加した。また貸出点数も平成28年度236,321冊から、平成29年度238,931冊となり、2,610冊増加した。平成21年度をピークに減少を続けていた利用者数が、平成27年度下半期から上昇に転じ、年間の利用者数が2年連続で増加したことは、各種の取り組みの方向性が間違っていないかという結果ではないかと考える。

特集コーナーについては、利用者に大変好評で特集コーナーの本がほとんど無くなってしまいうような状況が多くみられた。図書館から利用者への新たな本の提案という目的は達せられていると考える。

おはなし会の参加者は、昨年度と比べると約100名の増加であった。特に名古屋経済大学の学生の劇は100名を超える参加者があり、大変好評であった。また、プラネタリウムについても上映回数を増やしたこともあり、昨年度と比べると20名の増加であった。

今年度新たに開催した「親子で絵本を楽しもう！」は児童センターとの共同開催であったが、大変多くの方に参加していただき、親子で絵本を読んでいる姿を見てみると、読み聞かせの楽しさ、大切さを体感してもらうという当初の目標は達成できたと思う。しかし、事前の児童センターや委託先の子どもの文化の森との打ち合わせが足りなかったことが反省点として挙げられる。

名古屋経済大学との連携については、図書館の事業終了後に学生達が大口北保育園・大口北児童センターを見学して、現場の学習を行うという相互協力の形が取れた。加えて名古屋経済大学の職員をこれまであまり関係のなかった、関係部署やNPO団体に紹介をして、今後の交流のきっかけ作りができたのではと考えている。